

2021 年度

自己評価報告書

学校法人 晃陽学園

つくば栄養医療調理製菓専門学校

1 教育理念・目的・人材育成像

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	A	入学前のオープンキャンパス、説明会において教育方針を説明しており、入学時のガイダンスやオリエンテーションにおいても再度伝えている。それぞれの専門職業人としてふさわしい人間性・社会性・専門性を身につく指導を心掛けている	引き続き、教育目標を『専門職業人としてふさわしい人間性、社会性、専門性を身に付ける』とし、学科ごとの重点目標を業界ニーズに向け方向づけていく。
② 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	A	就職先、校外研修先等にパンフレットなどを送付、またオープンキャンパスや入試説明会等においても説明をしている。	
③ 学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確か	A		
④ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A	現場実習や自治体との連携、また就職先等外部からの意見を取り入れるとともに、内部の状況	
⑤ 各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	A	も整理し、ニーズに合った人材育成ができるよう、教育課程に反映させていく。	

2 学校運営

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	教育理念に基づき運営している。 職員会議等で方針を明確にしている。	教育理念に基づき、職員会議、各委員会を通して明確化し、連携・共有を図る。
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A	学校法人として、理事会・評議員会において明確な事業計画を策定し承認を得て遂行している。各学科からの代表者会議で年間計画をたて全て確認しながら遂行している。	
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機能しているか	A	校務分掌で役割担当を明確にし起案があったものは各学科代表者会議にて承認、実行している。	
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	A	就業規則により整備されている。	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A	決裁方法を明確にし、すみやかに意思決定を進めている。	
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	B	企業、地域社会と適切な関係性を保ち、学校の理念に沿った専門教育をより充実していくために内部組織として運営会議を設置し、定期的に課題等について協議している。	協議結果について職員会議などで教職員に周知するとともに、教職員に必要な研修を企画、実施していく。
⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	ホームページ、フェイスブックに加え、Instagram等のSNSにおいて授業内容を公開している。	引き続き、教育活動の公開内容、および公開の充実に努める。
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	A	導入している学生管理システムを効果的に使用し、業務の効率化を図っている。	効率をあげられるよう、作業内容の周知に努める。

3 教育活動

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	養成施設の設置基準を満たす教育課程を基本とし、本校の教育目標に沿った科目配置について年1回見直しをしている。 科目ごとの進行については、担当講師が年間授業予定表を作成し、それに沿った授業を行っている。	教科間また担当講師間の連携を図り、学生にとって効果的な学習となるよう工夫していく。
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	定期的な教育課程編成委員会の開催により、企業及び有識者から新しい、現状にあった意見を聞き、情報の把握、分析に努めている。	今後も専門分野のニーズを踏まえた対応を心がけ、積極的に意見を取り入れていく体制作りにつとめる。
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A		
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	教育課程編成委員会を設置することにより、関連分野の企業及び有識者から意見を取り入れカリキュラム作成に活用している。校外研修等で	引き続き組織的に意見を取り入れ、キャリア教育においても工夫しながら実施する体制作りに努める。
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	A	いただいた意見も積極的に取り入れていく。	
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	A	学校関係者評価において、外部委員からの意見を聞きとり、校内で共有している。	今後も外部関係者からの評価を柔軟に取り入れていく。
⑦ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A	各学科カリキュラムに組み込み体系的な位置づけのもとに実施している。	

⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	A	各期に授業アンケートを実施し、その評価をもとに授業の改善を図っている。	評価体制も状況に合わせて改善しながらよりよい授業ができる環境作りに務める。
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	単位取得、進級判定の基準を明確にし、進級・卒業判定会議において審議している。単位未修得になり得る可能性のある学生には、本人への指導・面談及び保護者への状況連絡も行っている。	
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A	各分野の資格取得に向けて、対策授業等の体制を整え、指導に取り組んでいる。	学生に合わせた指導内容を検討し、資格取得向上を目指す。
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	A	それぞれの専門分野の職員を配置している。実習及び学科を指導する職員も外部講師も含め有資格で経験豊富な教員を配置している。	
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	A	各業界と連携し専門性の高い講師を派遣してもらう体制が整っている。	
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	A	指導力向上のため職員研修は今後も時代に沿った内容を検討し、学生指導につながるよう実施していく。 関連分野で開催される学会や研修会に教員の参加を促している。	教員の資質向上のため、定期的に研修を行う。
⑭ オンライン授業など社会環境の変化に対応した多様な教育形態が実施されているか	B	多様な授業形態に合わせたオンライン授業を模索しながら行っている。さらによりよい授業を目標とするため、Bとした。	実技科目についてオンライン、配信授業ができるよう検討していく。

4 学生指導

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 基本的生活習慣の確立のための取組みが行われているか	A	日頃から積極的に関わることを継続している。 気になる学生には生活習慣の改善につながるよう声掛けを行っている。	
② 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	A	学生、保護者とも連絡を取り合える体制は継続しつつ、より強化している。	
③ 通学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	A	近隣の駐車場の確保及び学生会館を設置し、遠方からの通学に便宜を図っている。 就職指導に関する支援については、外部キャリアコンサルタントを招きセミナーを開催した。	
④ 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある学生等への支援など）が行われているか	B	スクールカウンセラーの設置に向けて状況を把握し検討に努めながら、教員が『精神・発達障害』に関する講座等を受講し、職員に伝達講習を行った。	障害や心理面に問題のある学生に柔軟に対応できるよう教員の知識、指導の向上に努めると共に、スクールカウンセラーの設置も検討する。

5 学修成果

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 就職率の向上が図られているか	B	入学前のオープンキャンパス等より、進路選択について説明し仕事に対する理解を深め、本人の意思を尊重する職種につけるよう面談をくり返し行い、就職率の向上を図っている。また、実社会において必要なマナーなどの研修を取り入れている。 教員の指導力向上のためセミナーなどを実施している。	コロナの影響も考慮しつつ、就職に対しての意識が高く持てるよう、現状にあった支援ができるよう改善していく。職員に対してもコミュニケーションスキルについての研修を追加し指導力向上に努める。
② 資格取得率の向上が図られているか	B	各国家資格取得に向けて、日々の授業を中心にを行っている。また、対策授業も継続的にやり、模試などを取り入れ学びを深め効果をあげている。	それぞれの資格の必要性、重要性を改めて伝え、自分の将来に役立てられるよう授業内においても引き続き対策を行っていく。
③ 退学率の低減が図られているか	B	入学前にできる限り学校の様子や職業について開示し、入学後のギャップが生じないように入試面談においてしっかり話を聞くようにしている。遅刻、欠席の多い学生には担任より都度声掛けし状況把握に努め、必要に応じて個別面談、保護者面談を実施し退学率低減を心掛けている。	コロナ禍で多面的不安を持つ学生が増えていることを把握しながら、将来に向けて目的意識が高まるよう関わっていく。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A	卒業後に相談に来る学生も多く、現状も聞くことができる。その際、在校生に仕事のやりがいなどを話す場を設けるなどしている。また、様々な情報を就職指導担当職員間で共有し、社会で活躍できるよう指導に努めている。就職先人事担当者と継続的に情報交換し、卒業生の就業の様子や課題等を把握するよう努めている。	校内にキャリアコンサルタントを設置し、キャリア形成を意識した教育活動を取り入れていく。
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	A		

6 学生支援

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A	コロナ禍におけるオンラインの就職活動について校内でも個別で Web 対応などの練習をしたうえで面接等に備え、また、県境の移動が難しい時期には企業を校内に招き説明会等を行った。	履歴書作成のセミナーなど就職活動に必要な知識習得の機会を設け就職活動の強化を図っていく。
② 学生相談に関する体制は整備されているか	A	日頃から声掛けをすることで、学生が相談しやすい環境づくりに努めている。	
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A	独自の奨学金制度はないが、オープンキャンパス等で公的な奨学金制度を紹介している。 また、学費納入の相談は随時受付が出来る体制をとっており、各家庭の経済状況に合わせて期間を延長しての納入や分割納入を相談・届出のうえで許可している。	
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	A	入学説明会時にアパート、駐車場情報を伝え、学生会館も設置している。昼食は給食により適切な食生活を提供している	コロナウィルス関連の欠席を公欠申請ができるようにし、学生が安心して相談連絡できる体制を作った。また、体調に不安がある場合の受診に役立つよう近隣の医療機関を把握し周知した。
⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	A	毎年年度初めに健康診断を行い、検査結果など把握している。また、予防接種や細菌検査を実施している	

⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	A	コンテストや検定試験には積極的に参加できるよう指導と支援を行っている。	学生の成長や自信につながるよう支援体制を充実させる。
⑦ 卒業生への支援体制があるか	A	再就職、転職を希望する卒業生には紹介も含め就職や国家試験対策等、相談にのり今後の活躍につながるよう支援している。	卒業生からの意見も聞きながら、支援体制を整え、よりよいフォローができるように努める。
⑧ 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	B	個別の対応については強化しているが、今後は組織的なプログラムの計画に努める。	卒業生の声を聞きながら、スキルアップにつながるようなプログラムを検討していく。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	A	教育活動や学校生活の状況を伝える際にもご理解をいただいていると感じる。体調不良など心配な点があった場合にも連絡をするように努めている。	
⑩ 社会人入学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	B	社会人入学生のニーズに沿うよう校内にキャリアコンサルタントを設置し、今後の運用に努める。	社会人入学生の目的、目標の把握に努め、キャリアコンサルティングの実施も取り入れていく。
⑪ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	A	高校からの依頼を受け講師派遣やインターンシップなど積極的に受け入れている。	近隣の高校からの依頼もあるため、職業教育につながるよう取り組んでいく。

7 教育環境

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A	施設・設備は設置基準に準じている。 新しい授業体制を考慮しながら社会状況に併せて引き続き改善に努めている。	多様化する授業形態に対応できるよう、必要に応じて順次改善していく。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A	社会状況に配慮しながら校内外の実習施設において管理を適切にし、引き続き体制を整えていく。	
③ 防災に対する体制は整備されているか	A	危機管理委員会を設置し、組織的に対策を行っている。	状況の変化に応じて学生への周知徹底、教職員の意識向上に努める。
④ 感染症など健康危機管理は実施されているか	A	感染対策を学生職員が意識して行うことで、クラスターの発生は防げている。検査キットも整備し、新型コロナウイルス関連の講座を受講し新しい情報を職員内で共有した。	今後も感染対策のみでなく自然災害等防災に向けても同様に取り組んでいく。

8 学生の受入れ募集

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	A	各高等学校で行われる進路ガイダンスへの参加、広報職員の高校訪問を通して、学校説明や在籍している学生の状況を報告。学校の情報を正確に提供するように努めている。	
② 学生募集活動は適正に行われているか	A	今年度は外国人入学者もあり、次年度の出願者数が昨年度を上回ったことから A とした。	引き続き、少子化に向けて、社会人や外国人受け入れに対してもさらに配慮していく。
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	A	学校や学科の特徴、取得資格、就職状況を正確に説明しミスマッチなく進路として選択してもらえるよう努めている。学校ホームページ、パンフレットに最新の実績を掲載し、誇張すること無く募集活動を行うよう配慮をしている。	
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	A	学生納付金は学則に則り募集要項に記載・徴収している。教材費や行事費等の実費についても、オープンキャンパス等で納入期日やおおよその金額を公表し、徴収時には明細を添付している。	
⑤ ソーシャルネットワークサービス（SNS）など学生のアクセスしやすい通信手段が整備されているか	A	Instagram、LINE、YouTube 等を活用し、アクセスしやすい環境作りに努めている。	コロナ禍においても有効的であった SNS の運用を今後も改善しながら活かしていく。

9 財務

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目		現状の認識および評価		課題と今後の改善策
①	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	A	予算に基づく適切な収支バランスを保持している。今後の18歳人口の減少などに対応する入学者確保に努めていく。	引き続き予算に基づく適切な収支バランスを保持し、今後の学生確保に努め、新年度開始前に予算・収支計画を作成し理事会・評議委員会でも承認を得ていく。
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A	新年度が始まる前に予算・収支計画を作成し、理事会・評議委員会で承認を得ている。	
③	財務について会計監査が適正に行われているか	A		
④	財務情報公開の体制準備はできているか	A		

10 法令等の遵守

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A	法令を遵守し運営にあたっている。	引き続き法令を遵守し運営にあたる。
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	B	パソコンの個人情報はセキュリティーのかかったサーバーで保管、管理している。書類については鍵のかかるキャビネットに保管している。	個人情報に関する危機管理については社会情勢に合わせて定期的に見直しを行い、保護に努める。
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	B	校内に自己評価実施委員会を設け評価と問題点の改善を図っている。また、学校関係者評価委員会を開催し外部委員からの意見を自己評価および学校運営、教育に反映させている。	定期的の問題点の確認をし、職員に周知のうえ改善できるようにしていく。
④ 自己評価結果を公開しているか	A	公開している。	

11 社会貢献・地域貢献

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	本校を会場とした食育教室や、公開講座、また、市内の栄養教諭を招き給食提供に関する研修会を行う事ができた。	ニーズに合わせた社会貢献・地域貢献を継続する。
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	B	コロナ禍においてボランティア活動が激減したが、地域企業と連携し商品開発などを行った。	継続的に地域貢献ができるような体制を整えることに努める。
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	A	感染症拡大防止対策を行い、地域住民に対する公開講座や委託授業を行うことができた。	環境の変化に応じて地域に対する公開講座等が行える体制づくりに努める。

2021 年度

学校関係者評価報告書

学校法人 晃陽学園

つくば栄養医療調理製菓専門学校

学校法人 晃陽学園 つくば栄養医療調理製菓専門学校は、自己評価報告書に基づき、以下の通り学校関係者評価委員会を実施致しました。

1. 開催概要

(1) 第1回学校関係者評価委員会

日 程 2021年10月29日（金）13：00～15：00

場 所 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館 4F 研究室

(2) 第2回学校関係者評価委員会

日 程 2022年2月25日（金）13：00～15：00

場 所 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館 4F 研究室

2. 出席者

(1) 第1回学校関係者評価委員会

氏名（所属）	選任理由
海老原 幸二（稲敷広域消防本部）	企業・関係団体
村山 正利（公益社団法人 茨城県獣医師会）	企業・関係団体
伊藤 久美子（公益社団法人 茨城県栄養士会 副会長）	企業・関係団体
池田 和輝（菓子工房 和楽）	企業・関係団体
湯原 幸子（学校法人 霞ヶ浦学園 つくば国際大学高等学校）	中学・高等学校関係者
大徳 友美	在校生保護者
松浦 希	卒業生
高田 峰夫	卒業生

(2) 第2回学校関係者評価委員会（書面会議）

氏名（所属）	選任理由
海老原 幸二（稲敷広域消防本部）	企業・関係団体
村山 正利（公益社団法人 茨城県獣医師会）	企業・関係団体
伊藤 久美子（公益社団法人 茨城県栄養士会 副会長）	企業・関係団体
湯原 幸子（学校法人 霞ヶ浦学園 つくば国際大学高等学校）	中学・高等学校関係者
浅野 百合子	在校生保護者
京川 誠	在校生保護者
松浦 希	卒業生
高田 峰夫	卒業生

3. 本校職員

氏名（役職）	氏名（役職）
今井 恭子（校長）	赤星 康彦（副校長）
川島 邦子（副校長・栄養士学科長）	野本 英雄（救急救命学科長）
斎藤 達也（専門調理師・調理師学科長）	矢口 旭（製菓製パン学科長）
丸尾 佳代子（教務課長）	山本 勝也（事務長）
江口 千佳（総務課長）	三浦 正克（総務事務員）
伊藤 順子（教務事務員）	

4. 学校関係者評価委員からの意見、提言等

自己評価項目	意見、提言等
1 教育理念・目的・人材育成像	・意見、提言は特になく、適正と判断する。
2 学校運営	・意見、提言は特になく、適正と判断する。
3 教育活動	・⑭のオンライン授業などの多様な教育形態実施に関して、オンライン対応など、どこ職場でも初めての事が多い中で実施できているのではないかと。B評価ではなくA評価でも良いのではないかと。 （オンライン対応環境整備やルール等、今後も検討する事項が多いため今回はB評価とし、さらなる向上に努めていく。） ・オンライン授業は対面授業よりも理解度が低くなり、生徒によって理解度が違うことも多いと思われるため、格差が広がらないようなサポートをお願いしたい。
4 学生指導	・オンラインでの就職活動の支援とはどのように行っているのか。 （静かな環境（教室）の提供、事前に画面を通しての表情、話し方の練習を行っている。）
5 学修成果	・退学率について、どの学科が多いのか、その理由はなにか。 （退学者は固定の学科が多いとかではなく毎年2～3人いる。理由の一番は進路変更（4～7月の時点で面談することが多い）、次に友人関係の悩みによる。） ・卒業生への支援、具体的に説明して欲しい、卒業生にアンケート等として何が必要か聞いているか。 （個々で連絡を取りスキルアップや転職の相談を受けているが、学校全体の組織的な支援には至っていない。引き続き検討していく。）
6 学生支援	・卒後の再教育プログラムとはどのようなものと考えているのか。 （必要な資格に応えられるような学校にしていきたい。栄養は管理栄養士の講座、調理は新しい技術、基礎教育ができるようなプログラムを考えている。卒業生にアンケートを実施し、卒業生や社会人にも役に立てるようなプログラムを作っていきたい。）

7 教育環境	・意見、提言は特になく、適正と判断する。
8 学生の受け入れ募集	・学生の受け入れ募集、増加した理由はなにか。 （コロナの影響で都内に出る学生が少なかったこと、広報活動においては広報職員だけでなく、学校全体で各学科の魅力、目指す資格等、SNS 等を活用し発信できたことの成果による。今後も様々な角度から募集をし、安定した学校運営につなげていきたい。） ・社会人、外国人の受け入れ体制について。 （今年度は、留学生 1 名を受入れることができた。社会人については開校当初から積極的に受け入れてきたが、高卒にむけての指導に偏りがちになり社会人にはギャップがあると思われる。就職指導は既卒と高卒で分けて実施するなど工夫している。今後もサポート、配慮していく必要があると考えている。）
9 財務	・意見、提言は特になく、適正と判断する。
10 法令等の遵守	・意見、提言は特になく、適正と判断する。

以上、頂いたご意見をもとに、内容の改善、より一層の教育を行い、今後の学校運営に努めてまいります。